

序 文

私は、IBD診療は内視鏡や外科手術と同じ一つの技術だと思っています。多様な病態、多様な社会背景、多様だけれども不十分な薬、いろいろあるバイオマーカー、そういったものを頭にインプットして、患者さんと一緒にどうすれば良いかを考える、それは内科医としての一つの技術です。しかし、内視鏡や外科手術は、先輩の先生が実際に行っているところを見て学ぶことができますが、IBD診療の多くは、医者一人患者一人の外来の密室でなされているため、先輩から学ぶことが難しいのです。

したがって、多くの先生(とくに若手や非専門医の先生)方は、誰に教えてもらえるわけでもない状態で、試行錯誤しながらIBD患者さんを診ていらっしゃると思います。そういった先生方に少しでも役立ててもらいたいという気持ちで、以前、IBD診療をQ&Aで解説した書籍を出版しました。その際、多くの先生方やIBD診療にかかわる製薬メーカーなどの方々から「大変わかりやすい」と好評をいただきました。しかし、IBDの世界は日進月歩であり、とくに、最近、新しい薬剤やバイオマーカーが多く登場してきました。登場するのは良いことですが、ますますIBD診療がややこしく混乱するものになってしまっているかもしれません。

そういったなかで、いまいちど、IBD診療のハウツー的な書籍が必要とされているに違いないと思い、本書を執筆しました。題名を『かとじゅん流』としたのは、IBD診療には絶対の正解があるわけではなく、あくまで「加藤 順の考え方に基づいている」という意味を込めたからです。ただ、自分で言うのも何ですが、まっとうなIBD診療のやり方を網羅的にわかりやすく書いてあると思います。本書が、皆様の日々の診療に役立ち、一人でも多くのIBD患者さんがhappyになることを願っています。

本書が形になりましたのは、以前の書籍同様、編集長の谷口陽一さんの力がとても大きいです。心より感謝申し上げます。

2021年3月 コロナ禍のまっただなかの千葉にて

千葉大学医学部附属病院診療教授・内視鏡センター長
加藤 順